

～南九州市茶業振興会より～

知覧茶(新茶)を寄贈!

南九州市茶業振興会から鹿児島県医師会、指宿温泉旅館事業協同組合、南九州市内の企業・福祉施設および官公庁などへ知覧新茶の寄贈が行われました。

この活動は、全国でも有数のお茶の産地である南九州市から、知覧茶を多くの方に楽しんで頂き、またリーフ茶の消費拡大と需要促進を図るため例年実施している活動ですが、今回初めて抗菌作用などにも効果のあるお茶を医療従事者への支援として寄贈しました。

寄贈を受けた指宿温泉旅館事業協同組合の細川代表理事は「観光業にとって強い味方になります」、鹿児島県医師会の池田会長は「医師や看護師は24時間体制で健康管理をしている。休み時間に飲んで緊張をほぐすことができます」と話し、感謝の言葉をいただきました。

今年の知覧茶は例年より早く茶摘みが行われ、また味・香りとも素晴らしい新茶ができていますので、南九州市茶業振興会では、このおいしい知覧茶を多くの方に飲んでいただければと思っています。



▲医療従事者の方へ寄贈



▲指宿温泉旅館事業協同組合の方へ寄贈



▲市内各施設などへ寄贈



▲市役所にも新茶が届きました

～知覧小「はなづらネットボランティア」より～

茶染めマスクを寄贈!

4月28日、新1年生の安全な学校生活を願い、知覧地区公民館のボランティア団体から手作りマスクの寄贈がありました。

マスクの表生地は市のデザイン手ぬぐい、裏生地は茶染めのさらしを使用。ボランティアは知覧地区公民館で染める作業を行い、その後自宅で子どもサイズのマスクに仕上げました。マスクを受け取った1年生は「お茶の香りがする」とうれしそうにしていました。



▲茶染めマスクを着ける知覧小1年生ら

～颯娃小学校地引き網体験～

大量の魚に喜びの声！

5月8日、颯娃小学校の児童104人が前原海岸にて地引き網漁を行いました。

昨年は新型コロナウイルスの影響で中止となりましたが、35年以上続く伝統行事として、海洋資源への関心を高める機会となっています。児童らは懸命に網を引いて、タイやアジなど大量の魚に喜びの声を上げていました。取れた魚は、鹿児島水産高校の先生方から解説を受け、海洋生物の生態などについて学びました



▲地引き網漁を体験する颯娃小学校の児童

～鹿児島水産高校から贈呈～

清流溝に鯉を放流

4月27日、鹿児島水産高校海洋科栽培工学コースの生徒が卵から育てた鯉100匹を贈呈していただきました。

今年で11回目となる式には、同校から3年生7人が参加しました。代表として海洋科栽培工学コース3年の松尾昇輝しょうきさんが「育てた鯉が観光のためになれば」とあいさつ。

知覧武家屋敷通り近くの清流溝に放流された鯉はせせらぎの中、元気に泳いでいました。



▲色とりどりの鯉が清流溝に放流されました

～さつまいも(えいもちゃん)の初荷出荷式～

颯娃の「さつまいも」神社で祈願

5月26日、2021年度産超早掘り青果用さつまいも「えいもちゃん」の順調な生育と高値取引を願い、釜蓋神社で初荷出荷式を行いました。

勝負をかけるという決意を込め、同神社に今年掘り取ったばかりのイモを奉納しました。尾曲幸ゆき専門部会長は「昨年は、サツマイモ基腐病が発生したが、関係者一丸となり対応してきた。お蔭でおいしいイモができた。消費者に安全・安心なさつまいもを届けられることをうれしく思う」と述べました。



▲今年掘り取ったさつまいもを奉納する尾曲専門部会長

～golden week & mother's day special fair～

花き消費拡大PR活動

4月30日～5月9日、花きのPRを目的として道の駅川辺やすらぎの郷にてフラワーアレンジメントの展示が行われました。

市内花き生産者から提供されたカーネーションやダリアを用いたフラワーアレンジメントがロビーに置かれ、来場者を歓迎しました。また5月9日の「母の日」に向け、花き振興会会員が市内で生産したカーネーションなどの花きが店頭に並び、好評でした。



▲道の駅川辺やすらぎの郷のロビーに展示されたフラワーアレンジメント

～有限会社 永照電気より～

感染対策用防護服を寄贈

5月12日、有限会社永照電気から感染対策用として防護服120着を寄贈していただきました。

代表取締役の河野洋一郎さんは、世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症の感染拡大から、「市の感染対策用として防護服を贈りたい」と寄贈への思いを話しました。

頂いた感染対策用防護服は避難所消毒作業のほか、鳥インフルエンザや口蹄疫などの除染作業に使用される予定です。



▲南永照電気代表取締役の河野洋一郎さん（中央）と防護服着用モデル

～浮辺小学校の再編に関する要望書提出～

子どもを思う保護者・地域から要望

5月19日、浮辺小学校の保護者や地域代表を委員とする同校統合検討委員会から、令和5年度から同校を霜出小学校へ再編するよう求める要望書が、市長、教育長に提出されました。

田中泉委員長は、「子どもたちがより豊かな教育を受け、たくましく成長していくためには、再編が望ましいという保護者の思いに地域も理解を示し、今回の要望書提出に至った」と話し、円滑な再編に向けた児童への配慮と支援を求めました。



▲浮辺小学校の再編に関する要望書を市長に提出する田中泉委員長（右）

～南九州電気工事協会より～

避難所用発電機3台を寄贈

5月12日、南九州電気工事協会から避難所用発電機3台を寄贈していただきました。

会長の折田和久さんは、大雨や台風など自然災害が起こりやすい時期に入ったことから、「災害時に避難所で活用できる発電機を贈りたい」と思いを話しました。

頂いた発電機は、避難所と災害対策本部間の連絡や気象・災害関連情報の取得に必要な携帯電話の電源確保などに使用する予定です。



▲南九州電気工業協会の皆さんと寄贈された発電機（右の3台）

～地域交流センター「はやま」（旧別府中）を避難所指定～

社会福祉法人更生会と災害協定

5月12日、社会福祉法人更生会との災害協定締結式が行われました。

この協定は旧別府中学校を社会福祉法人更生会への譲渡に伴い、災害発生時に施設を避難所として使用するものです。理事長の中村邦彦さんからも地域貢献の立場から施設使用に対して快く引き受けていただきました。この協定により別府・松原地区の避難所数を維持することになりました。



▲災害協定を締結した社会福祉法人更生会理事長の中村邦彦さん（右）